

調査項目①「自転車走行空間の現状と課題解決に向けて」

1. はじめに

本市ではこれまで「自転車は車両」との原則で、車道への自転車レーン整備を進めてきた。しかし、多くの市民から「子どもを乗せて走行するのが怖い」「路上駐車があつて走行しにくい」などの意見を数多く受けてきた。現在、市当局は「自転車・歩行者道」を積極的に整備している。現在までの効果として、自動車、自転車、歩行者の通行帯が分離され、接触事故の防止、通行状況の視認性向上等の効果が確認されている。

当委員会では「自転車レーン」について、先進自治体の取組状況の確認、また市民団体等との意見交換を実施し、本市の自転車走行空間の更なる安全性・信頼性の向上を図ることをめざし調査・研究活動を実施した。

2 調査経過

日 時	活 動	概 要
R 6 . 2 . 7	視 察	愛知県豊田市 「とよた快適自転車プラン」について
R 6 . 4 . 1 6	分野別意見交換会	「箕面小校区での自転車通行の現状と児童・生徒の安全確保について～日頃の見守り活動からの視点で～」をテーマに箕面小校区青少年を守る会と意見交換
R 6 . 5 . 1 1 R 6 . 5 . 1 2	地域別意見交換会	「自転車走行空間の現状と課題解決」をテーマにグループディスカッション形式で意見交換

3. 調査報告

豊田市の視察では、自転車レーン整備について、「空間づくり」は勿論であるが、特に、ヘルメットを着用の促進など「意識づくり」を重視し、市民を巻き込んだ「仕組みづくり」を積極的に推進し、交通事故防止を推進していることを確認した。

箕面市青少年を守る会との意見交換会では、自転車利用者の多くが自転車に関する法令や規則を知らず、傘差し運転やスピードの出し過ぎ等、大事故につながる危険走行、ヘルメット未着用などのヒヤリハットが日常的に多く散見されることを確認した。

4. おわりに

本市においては、「自転車・歩行者道」を積極的に推進し、自転車に関する交通事故防止を図っている。この取り組みは視察した豊田市に比べ進んでいるが、一方でヘルメット着用や交通ルールの遵守などの市民への啓発促進はというと、意見交換会でも問題提起されたように課題が多い。当委員会として、レーン整備を進める一方で、この際、市民への「自転車安全利用五則」をより積極的に啓発周知するような「意識づくり」を推進していただくよう必要があると考える。